

1987年度

博士課程単位修得・修士論文題目

氏名 所属ゼミ名

博士課程単位修得論文題目

【商学研究科】

経営資源の導入・生産ポリシーに関する研究	張 健 浩	(宮川)
情報システムの組織適合性に関する一考察	上田 泰	(宮川)
医療システムの組織化に関する研究	遠藤 久夫	(金子)
組織の経営構想力	沼上 幹	(野中)
——焦点化装置の社会的構成——		
ドイツ会計学における利益計算構造の類型化	万代 勝信	(安藤)
金融自由化と銀行	高橋 豊治	(花輪)

【経済研究科】

地方公共サービスの経済分析	塚原 康博	(野口)
シスモンディ経済学研究序説	戸田 雄幸	(関)
——「新原理」第2篇・第4篇を中心に——		
財産税と地主制	広田 四哉	(中村)
独占的流通課程に関する一考察	湊 憲一	(関)
EXCHANGE APPRECIATION AND STRUCTURAL ADJUSTMENT		
——RELEVANCE OF THE DUTCH DISEASE TYPE PHENOMENON FOR		
JAPAN——	ア Nil・コスラ	(寺西)
CHANGES IN TRADE PERFORMANCE OF THAILAND		
	キーセン・アナンシリプラハ	(山沢)
日本の自動車産業	孫 先	(中村)
——経済高成長期を中心に——		
集団農業の理論と実践：中国のケース・スタディ	杜 進	(清川)
戦後日本総合商社の商権拡張と海外進出	李 石	(中村)

【法学研究科】

債権者代位権の機能と構造	工藤 裕蔵	(好美)
経済力濫用規制の研究	田中 裕明	(久保)

—西ドイツにおける市場支配的事業者および市場で有力な事業者の規制をめぐって—

公開買付をめぐる法規制の現状と課題	古山 正明 (堀口)
アメリカにおける国際通商規制の現状と問題点	本田 直志 (久保)
近代フランスにおける財政議会主義の生成と展開	小沢 隆一 (杉原)
欧州共同体の条約締結権限	西谷 元 (桑原)
ドナウヴェルト論駁書	村上 裕 (勝田)
フランス現代憲法における委任立法	村田 尚紀 (杉原)
封じ込め政策の転換	佐々木卓也 (有賀)

—ジョージ・F・ケナン, ポール・H・ニッツイと政策企画室, 1948年—
1853年—

【社会学科研究科】

近代ドイツ政治思想における国家と人民	森川 孝吉 (田中浩)
価値の構造	宮沢 俊郎 (嶋崎)
G・ジンメルにおける「近代的個人の存立構造・様式」の問題について	池田 光義 (平子)
日本における地理教育史の研究	ジョハナ・S・マリアチナタ (竹内)
—主として明治より第二次世界大戦期の場合—	
日本文化の諸相	寺沢 正晴 (佐藤毅)
「批判」とスポーツ理論	鬼丸 正明 (川口)
イギリスにおける環境教育の成立	安藤 聡彦 (藤岡)
—パトリック・ゲデスとエディバラ—1880—1904—	
戦後社会体育政策の生成と展開	尾崎 正峰 (川口)
大恐慌期のオーストリア農村社会経済とファシズム運動	古田 善文 (油井)
1975年南部開放後ベトナムの「新傾向」文学について	加藤 栄 (木山)
戦後初期ソ連占領下ドイツにおける農村社会	木戸 衛一 (油井)
メキシコ鉱業の米支配と「外資政策」の展開 (1890~1911)	佐藤 勘治 (本田)

修士論文題目

【商学研究科】

- | | | |
|-----------------------|---------|------|
| 経営計画と需要予測について | 趙 家 林 | (宮川) |
| ——中国耐久消費財の需要予測を中心に—— | | |
| 「動的貸借対照表論」における二元構造の研究 | 佐々木隆志 | (森田) |
| 企業の会計政策の分析 | 高橋 史郎 | (中村) |
| ——アメリカの実証研究を素材として—— | | |
| 海外直接投資と多国籍企業金融 | エナフ・ジョン | (花輪) |

【経済研究科】

- | | | |
|---|-------|------|
| ON A MULTIPERIOD SECURITY TRADING MODEL | | |
| ——THE USE OF MARTINGALE THEORY—— | 大橋 和彦 | (山崎) |
| アメリカ型福祉国家の形成 | 佐藤千登勢 | (平井) |
| ——1935年社会保障法の成立とニューディール—— | | |
| ソ連企業の「自己金融」方式に関する一考察 | 塩原 俊彦 | (西村) |
| 日本的雇用慣行の理論 | 中村 健一 | (小野) |
| ——労働組合と雇用慣行—— | | |
| 情報化と独占資本主義の再編成 | 野田 哲夫 | (松石) |
| アメリカ石油資本の対英領北海進出 | 本田 浩邦 | (平井) |
| ——開発コンソーシアムの形成と産業金融—— | | |
| マルクス信用論における利子生み資本論の意義 | 松井 暁 | (松石) |
| 経済成長要因と構造変化分析 | 安 炳 | (宮沢) |
| 日本の製糸資本と植民地朝鮮の蚕糸業 | 權 赫 泰 | (中村) |
| 韓国における熟練形成のあり方 | 南 奭 鉉 | (小野) |
| ——韓・日比較を通じて—— | | |
| 鉄鋼業における技術選択 | 劉 德 強 | (南) |
| ——鞍山製鉄所について—— | | |

【法学研究科】

- | | | |
|----------------------|-------|------|
| TDF／個人データをめぐるOECDの活動 | 太田 育子 | (桑原) |
| EC理事会の政策決定方式と単一欧州議定書 | 松本千賀子 | (野林) |

抗弁制限の基礎理論（いわゆる後者の抗弁に関して）

長瀬 範彦（川村）

日本法における株式代表訴訟制度についての再検討

周 剣 竜（久保）

買主の検査通知義務についての考察

鐘 薇（石原）

——1980年国連国際的動産売買契約条約を中心に——

西ドイツ刑事訴訟における私人訴訟制度

上田信太郎（村井）

西ドイツにおける in dubio pro reo 原則の現代的展開

内山 安夫（村井）

営造物理論の展開と課題

大久保規子（南）

セーフガード問題をめぐる国際政治

山田 敦（野林）

——M F A成立の事例——

在日韓国人の集団アイデンティティ

金 太 基（山本）

法の支配の現代的展開

周 作 彩（南）

中国と日本の公務員制度に関する法的比較研究

楊 建 順（南）

【社会学研究科】

シュフチェンコにおけるウクライナ意識の形成と展開

新形 悦子（中村喜）

メディア・ディスクールと都市の認知

小川 葉子（竹内）

民族差別——生活史調査による接近

島崎 久（浜谷）

プーフェンドルフの政治思想

前田 俊文（田中浩）

靖国神社問題に対する一考察

周 初（田中浩）

戦後日本の対中国政策

陳 誠 任（田中浩）

——台北政府と北京政府に対する政策転換の歴史的考察——

開発・発展の理論と地域社会

新原 道信（矢澤）

——サルデーニャにおける内発的発展の可能性——

バスク地方の社会人類学的研究

東 暁子（長島）

秩父事件における自由党と困民党

金 弼 東（安丸）

「保守回帰」に関する一考察

張 官 倉（安丸）

マリアとひも靴

岡 裕 人（阿部）

——中世末期西南ドイツにおけるブルトシュー蜂起の研究——

- | | |
|--|-------------|
| 西北ヨーロッパのベギン運動
——女性の宗教活動と生活様式—— | 泉 真紀子 (阿部) |
| 「江戸っ子」序論 | 方 善 英 (梅谷) |
| 近代日本における国際平和論
——自由主義者長谷川如是閑を中心にして—— | 金 璋 浩 (田中浩) |
| 障害者の生活実態と人権
——生活史調査によるアプローチ—— | 鄭 淑 宮 (浜谷) |
| 働く婦人と保育問題
——育児の社会化についての一視点—— | 林 育 汝 (藤田伍) |